上段の丘



一関市立川崎中学校　学校だより
令和８年10月28日　第15号
文責　校長　齋藤　真

Sparkle（スパークル）　生徒一人ひとりがきらめきを放つ感動の川中文化祭

10月24日（土）、川中文化祭が開催されました。多くの保護者の皆様、地域の皆様にご来場いただき、温かく見守っていただきながら、様々な発表をご覧いただきました。文化祭閉祭式の全体講評でもお話しさせていただきましたが、改めてご紹介させていただきます。





作品展示について。これまでの学習の成果を、作品という形で発表しました。作品をひとつひとつ見ながら、授業で一生懸命取り組んでいた姿が思い出されました。作品には、それぞれの個性がしっかり表れていました。作品は中学校時代に取り組んだ思い出となります。これからも大切に飾ったり、使ったりしてほしいと思います。





ステージ発表について。総合文化部は、文化祭当日まで練習に励んできました。楽器ができるようになるまで、曲が弾けるように叩けるようになるまで、合わせられるようになるまで、膨大な時間がかかったと思います。華やかな演奏の裏には、人知れない練習があったはずです。そのことを思いながら、胸が熱くなる発表でした。恋ダンスのサポーターもとても良かったです。

総合的な学習の時間の発表について。今年度はステージでの発表ではなく、フロアでAからGのエリアに分かれての発表でした。各エリアの発表は限られた時間でしたが、一人ひとりの役割は大きく、それぞれがたくさん準備をしました。「より近くで、総合学習で学んだことを聞いてほしい」という思いから今回のような形をとりました。１年生はグループでの発表でしたが、協力しながら真剣に発表しており、初々しくも川中生らしく成長していました。２年生は職場体験についての発表でした。文化祭当日は職場体験訪問先の方もいらっしゃっていて、発表を聞いた後、「ぜひ職場に来て、今日のこの発表をもう一回聞かせてほしい。職員が喜ぶ。」と話されました。やった甲斐がありましたね。３年生は、中学校での３年間の総合を振り返っての発表でしたが、さすが３年生！でした。発表を聞いてくれる相手をしっかり見て、原稿も見ずに堂々と、しかもアドリブも多彩に表現力の高い発表でした。３年間の歩みが、自信となって身についている。そう感じました。











開祭式、閉祭式について。生徒会執行部による工夫が凝らされ、とてもワクワクする式典となりました。生徒会執行部の皆さん、本当によくやってくれました。生徒会長を先頭に、全校をしっかりリードして、素晴らしい文化祭をつくってくれました。それぞれのRISEの紹介、一関東中学校からI-Bridgeの応援メッセージ等、見どころがたくさんでした。

そして、フィナーレの全校合唱について。文化祭スローガン『Sparkle　～主体性が導く、さらなる飛躍～』にふさわしい合唱でした。限られた時間の中、もしかしたら間に合わないかもしれないという追い詰められた状況の中でも、３年生を中心にして練習を積み重ねてきました。そうして披露された「星影のエール」と「Five」。ここまで個別で発表する場面が多かったのですが、ラストは川中生がまとまってきらめきを放ちました。一人ひとりの歌う表情は豊かで、大きく響くメロディーは人数以上のまとまりを感じさせ、歌声と共に伝えられる歌詞には、心を揺さぶられ、目頭が熱くなりました。素晴らしい合唱でした。観客の皆様からは、「ブラボー！」という声が響き、大きな大きな拍手が送られ、「まるで卒業式みたいな感動です。みんな、すごい。」というコメントまでいただきました。







ご来場いただきました皆様に、心より感謝申し上げます。子どもたちは、たくさんの愛情に包まれて健やかに成長しております。今後とも温かいご支援のほど宜しくお願いいたします。